

第1章

計画の策定にあたって

OECD（経済協力開発機構）¹ 国際経済全般について協議することを目的とした国際機関。主な活動はマクロ経済運営のための国際協力のほか新たな社会問題への対応として少子高齢化に伴う諸問題や生涯学習・学校教育などの社会問題の分析なども行っています。

国際学習到達度調査² 41か国276千人の15歳の男女の読解力・数学的応用・科学的応用力・問題解決能力について調査。日本では高校生143校4700人が参加。

1．計画策定の背景

¹経済開発協力機構（OECD）が平成16年に行った²国際学習到達度調査によると、日本の成績は「読解力」についてOECD加盟国の平均点を下回り、4年前の前回調査の8位から14位になったと発表されました。「読解力」1位のフィンランドが「読書文化が浸透している国」と言われる一方、日本では本を読まなくなったことに加え、「趣味としての読書をしない」子どもの率が高く、テレビやビデオを見る時間は最長とされています。

「読解力」は、文章を読んで内容を正しく理解する力のことであり、他の人の知識や考え方を知り自分の世界を広げることに繋がっていきます。「読解力」は読書活動によってのみ培われるわけではありませんが、人間形成の過程において大きな役割を果たすことは間違いありません。また、自主的に楽しみながら読書活動を行うことが効果を高めるものと考えられます。

平成13年12月には子どもの読書活動の推進に関する法律が施行され、平成14年8月に文部科学省が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。また、これを踏まえ北海道では平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

このように国・道においても読書活動がもたらす様々な効果を重要視しており、この計画を基本としながら網走市における子どもの読書活動を推進する計画を策定するものです。

2．計画の目的

この計画は、本市の子どもたちが読書活動をとおして豊かな感性や創造力、じっくり考え自ら判断する力を身につけるため、家庭・地域・学校で担うべき役割を果たしつつ子どもの発達段階に応じて読書に親しむ環境を整えていくことを目的として策定します。

3．計画の位置付け

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条に基づいて策定された国の基本計画及び北海道の推進計画を基本とし、本市の状況に応じた計画として策定します。

また、網走市の施策・諸計画との整合性、協調性を図った計画として策定します。

4 . 計画の対象

この計画の対象は、主に0歳から18歳までの子どもを対象とします。

また、子どもの読書活動の推進に関わる保護者はじめ、市民ボランティアや地域住民、行政関係団体も対象となります。

5 . 計画期間及び評価

本計画の計画期間は平成17年度から21年度までの5年計画とし、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

6 . 計画の基本方向

この推進計画は、次の3本柱により子どもの読書活動の推進を目指します。

- (1) 各関係機関・団体と連携して子どもたちの読書機会の拡充を図ります。
子どもが、読書活動を通じて豊かな心を育むことができるよう関係機関やボランティア団体・サークルなどと連携・協力して読書機会の拡充を図ります。
- (2) 子育てや家庭教育の支援となるような読書活動を推進します。
親子の温かい人間関係を育み、子どもの精神的な安定感や基本的な生活習慣や自主性・創造性を培う「読み聞かせ」などの読書活動の大切さを、子育て教室や乳幼児の健康相談などの機会をはじめあらゆる機会を通じて啓発・推進します。
- (3) あらゆる機会にあらゆる場所で読書活動ができるような環境整備を行います。
日常生活において子どもが読書に親しめるよう幼稚園・保育所・小中学校・高校・養護学校などの読書活動や図書館などにおける市民の読書活動など、網走市民の読書活動を充実させます。

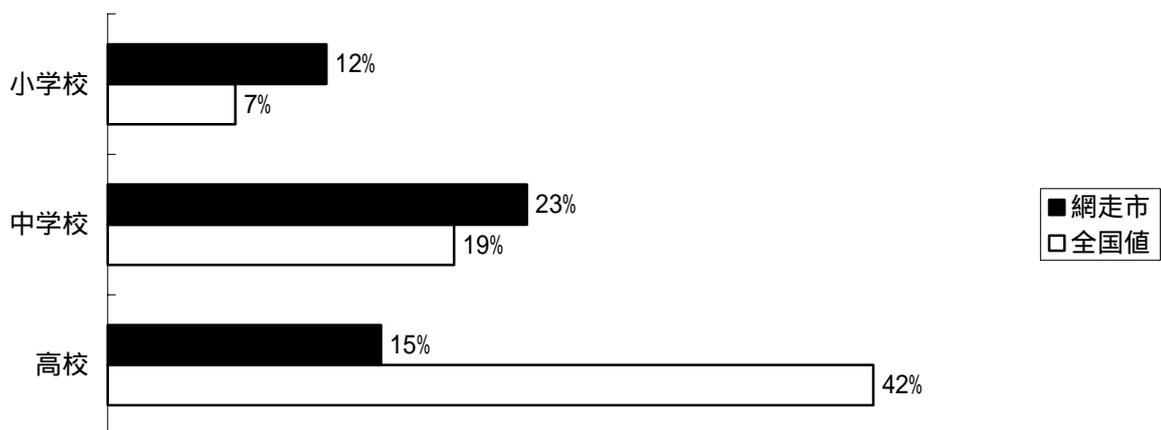
第2章 子どもの読書活動の現状

網走市では、市内の小学校・中学校・高校の全校生徒を対象に「³網走市子どもの読書活動に関するアンケート調査」を実施しました。うち小学校7校、中学校4校、高校2校から回答を得ました。また、乳幼児期のよみきかせなど読書活動の現状を知るため幼稚園・保育所に協力いただいたとともに、乳幼児の保護者のみなさまにも読書活動に対するアンケートについてご協力をいただきました。

1. 読書量について

⁴第50回学校読書調査のデータによると、1か月に読む本の冊数は、小学生が7.7冊、中学生が3.3冊、高校生が1.8冊となっています。また1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合は小学生が全体の7%、中学生が19%、高校生が42%となっています。

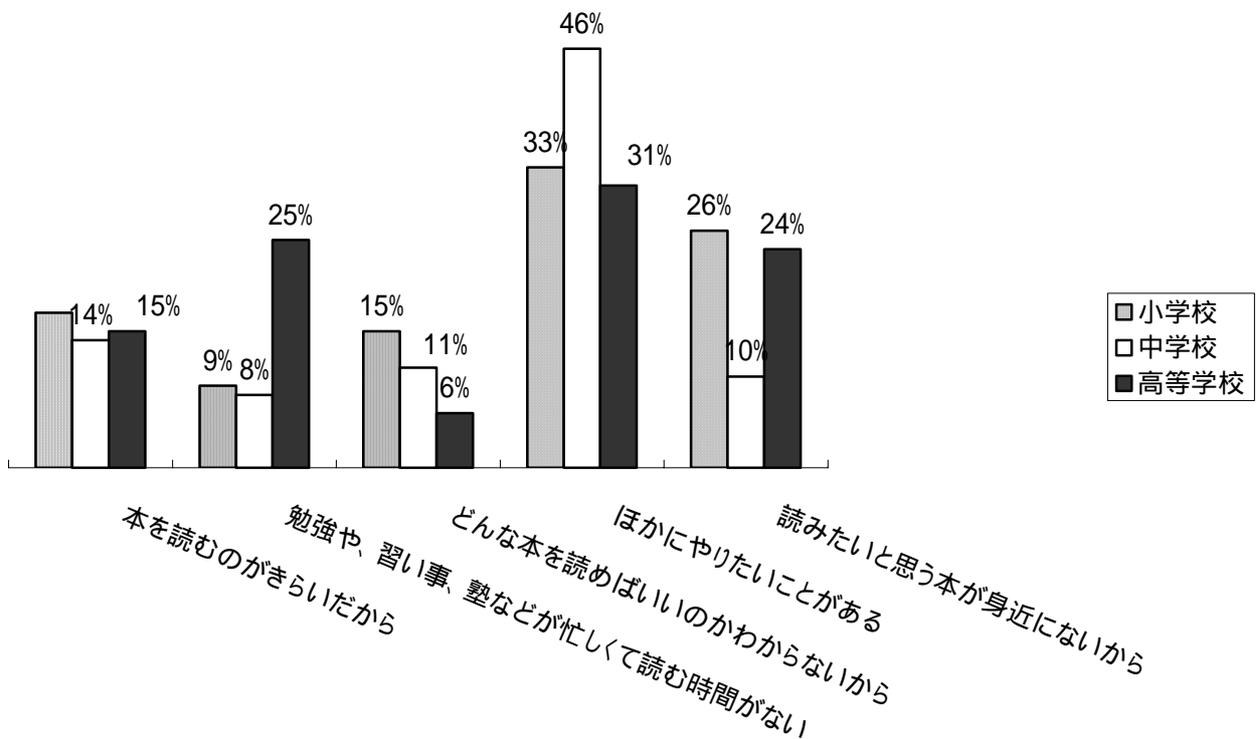
網走市が行った「子どもの読書活動に関するアンケート調査」では、1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合は小学生が12%、中学生が23%、高校生が15%となっており、小学生と中学生では全国的な傾向に比べて本を読まなかった割合が多い結果になりました。しかし、高校生では全国値と比較すると1冊も読書をしなかった生徒が3分の1程度とかなり少ない結果になり、年齢が上がるにしたがって不読率が高くなっている全国的な傾向と大きく違う点になっています。



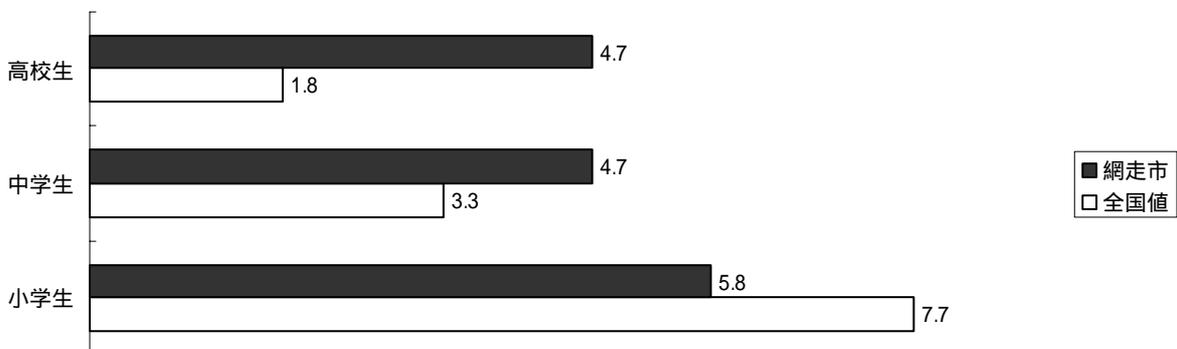
【1か月に1冊も本を読まなかった割合（不読率）】
全国値：第50回読書調査（平成16年6月）
網走市：子どもの読書活動に関するアンケート調査（平成16年12月）

第50回小学校読書調査
 平成16年6月に毎日新聞社が全国小学校図書館協議会の協力を得て選定基準により全国から求めた調査対象から各学年合計1179人に学級担任が説明しながら回答を記入する集団質問紙法による調査です。

本を読まない理由としては、小学生・中学生では「ほかにやりたいことがある」が第1位で、次いで「読みたいと思う本が身近にないから」となっています。高校生では「ほかにやりたいことがある」が第1位ですが、「勉強や習い事、塾などが忙しくて読む時間がない」が2位になりました。



また、1か月に読む本の冊数では、小学生が5.8冊と全国値を下回りましたが、中学生は4.7冊、高校生は4.7冊と読書量は全国値より多くなっています。



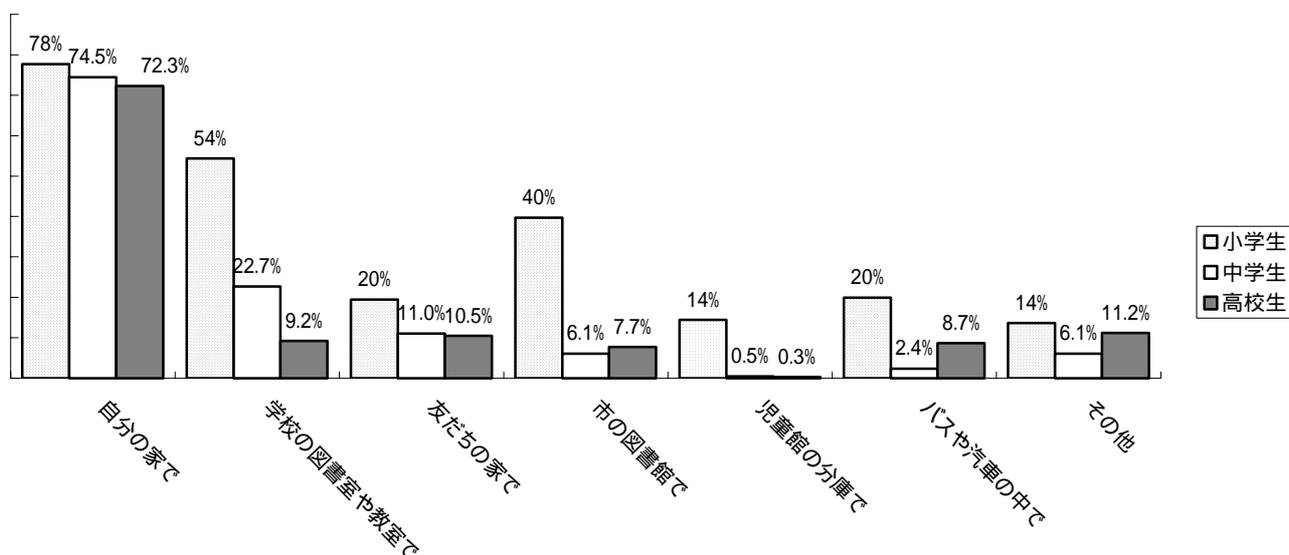
【1か月に読んだ本の冊数】

全国値：第50回読書調査（平成16年6月）

網走市：子どもの読書活動に関するアンケート調査（平成16年12月）

2. 読書環境について

「あなたはどこで本を読みますか」という問いに対しては、小学生は「自分の家」が一番多く、次いで「学校の図書室や教室」「図書館」となっています。中学生も「自分の家」「学校の図書室や教室」に次いで「友だちの家」が上位に入っており、高校生は、「自分の家」がほとんどですが、「友だちの家」「図書館」「学校の図書室や教室」「バスや汽車」などがほぼ並んでいます。小学生、中学生、高校生とも70%以上が自分の家で読書をしています。

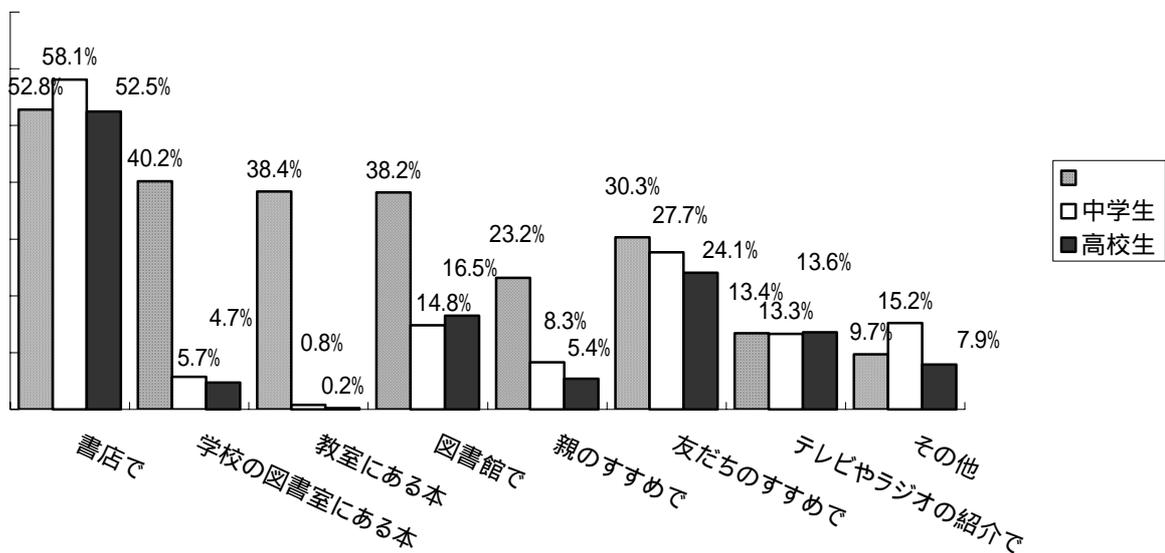


【あなたは主にどこで本を読みますか】

3. 読書の趣向について

「どのようにして自分で読む本を選んでいるのか」という問いには、小学生が「書店で選んで」「学校の図書室から選んで」「教室にある本を選んで」「市の図書館で選んで」の順番になっており、中学生では「書店で選んで」「友だちがおもしろいとすすめてくれた」「市の図書館で選んで」「その他」(リサイクル店で購入など)となっています。高校生では「書店で選んで」「友だちがおもしろいとすすめてくれた」「市の図書館で選んで」「テレビやラジオで紹介している本に興味を持って」となっています。

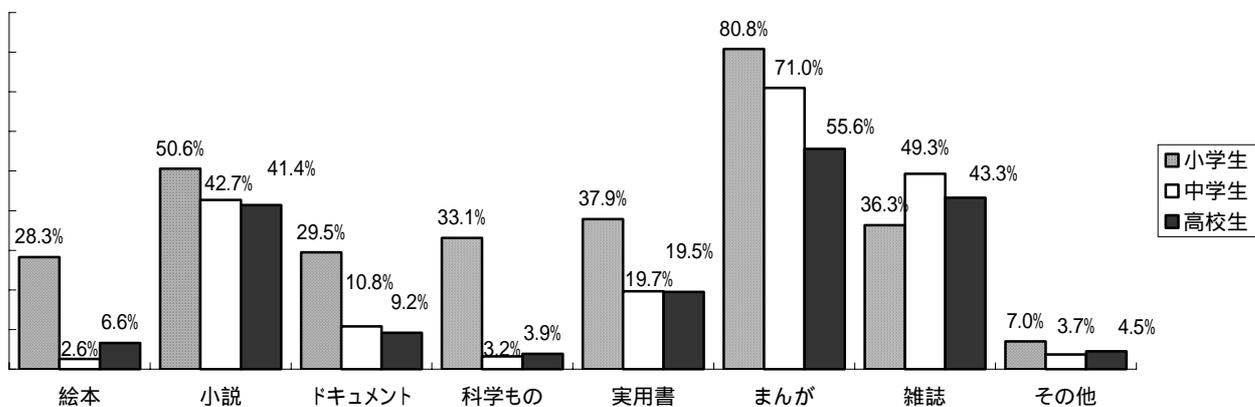
学齢が上がるにつれて本を選択する手段が能動的で視野を広げて選択しているのがわかります。



【あなたはどのようにして自分の読む本を選びますか】

また、「どんな内容の本が好きか」という問いでは、小学生は「まんが」(コミック・週刊誌を含む)「小説」(物語・童話含む)「実用書」(趣味・スポーツなど)「科学もの」(恐竜・病気など含む)の順番になっており、中学生は「まんが」「雑誌」「小説」「実用書」となっています。高校生では「まんが」「雑誌」「小説」がほぼ同程度で、次いで「実用書」となっています。

どの年代も一番読まれているのは「まんが」ですが、特に中学生の数字が多くなっています。

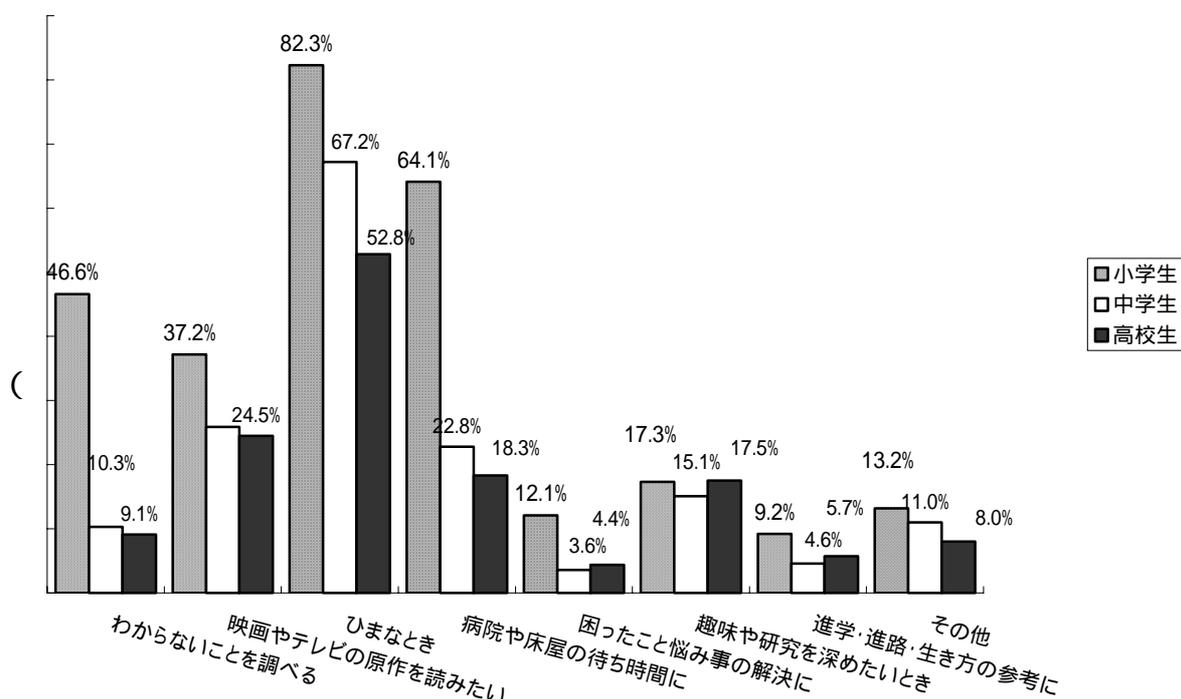


【あなたはどんな内容の本が好きですか】

4 . 読書の位置付けについて

子どもたち自身が、「どのようなときに本を読みたいと思うか」という問いには、小学生・中学生・高校生とも「ひまなとき」や、「病院や床屋の待ち時間に」などが多く、小学生では総合的な学習の時間と関わって「わからないことがあったときにしらべる」や「趣味や研究を深めるため」が若干多くなっています。

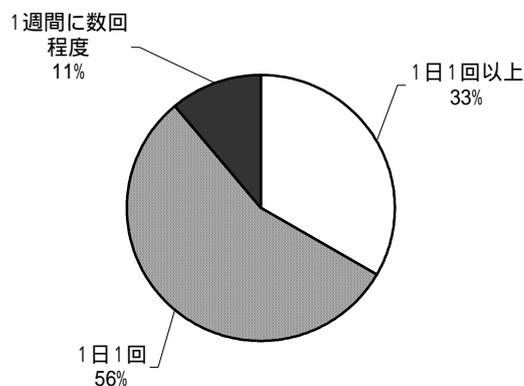
全世代を通して「映画やテレビを見て原作を読みたいと思った」という回答も30%前後ありますが、「悩み事の解決」や「進路・生き方の参考」のための読書は少数で、積極的に読書に取り組むというよりは何もすることが無いときの時間の過ごし方のひとつとなっているようです。



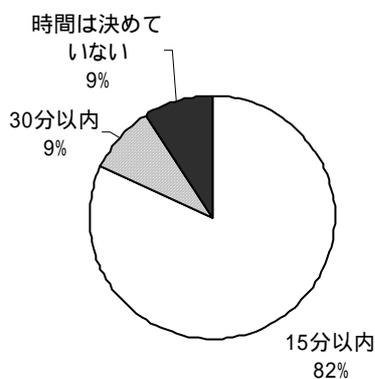
【あなたはどのようなとき本を読みたいと思いますか】

5 . 幼稚園・保育園での読み聞かせ

幼稚園・保育園での読み聞かせについて質問したところ、回答のあった幼稚園・保育園すべてで1日1回または1週間に数回の「読み聞かせ」の時間をとっていました。1日1回以上と答えたところも数か所あり、幼稚園・保育園での「読み聞かせ」は、かなり定着しています。また、1回の「読み聞かせ」の時間はほとんどが15分以内で職員が読み手となって行っており、「読み聞かせ」が園のカリキュラムとして位置付けられていることがうかがえます。



【どのくらいの回数で行っていますか】



【1回の時間はどのくらいですか】

また、「読み聞かせに必要な本の確保」について聞いたところ、全部が「園で購入」と答え、その他に「職員が個人で購入したものを読み聞かせに利用している」「図書館から本を借りる場合もある」という回答がありました。

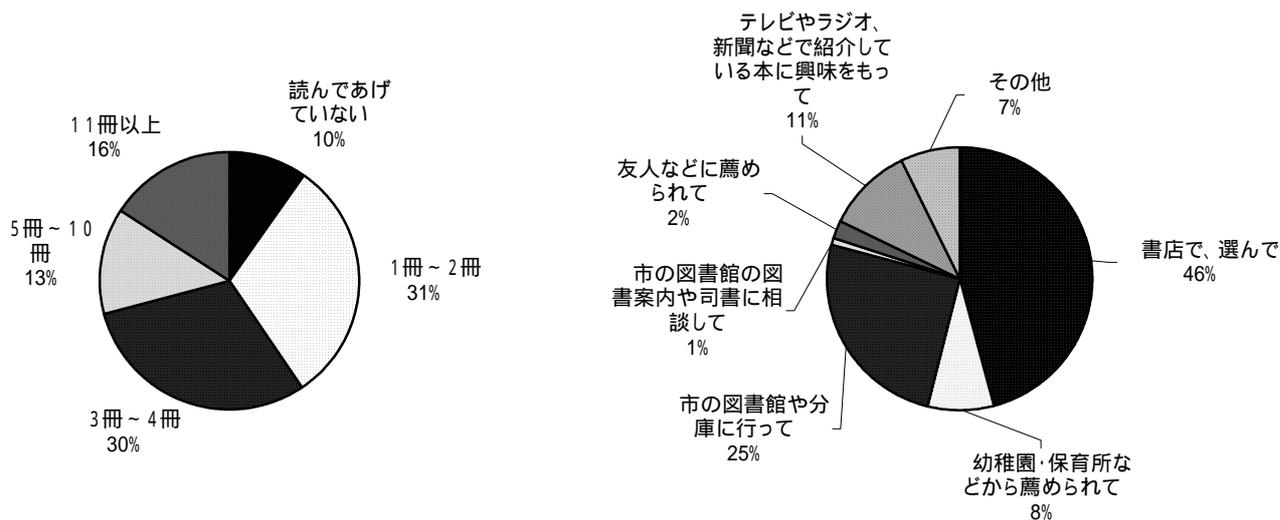
「読み聞かせ」以外の読書活動について聞いたところ、一部の園では、「絵本を読むスペースをつくって自由に本が読めるようにしている」「昼食後に各自で読書をする時間を設けている」「園の絵本を毎日貸し出ししている」という活動が記述されました。

「読書活動を進める上での問題点や日頃考えていること」について聞いたところ、「読み聞かせ」や「読書」は子どもたちの「心のやすらぎ」や「落ち着いた生活態度」に効果があると考えており、「ゆっくり絵本を読む生活環境」が家庭や園生活の中で必要と答えています。「読書コーナーの配置」や「本の数の確保」を望む記述もありました。

6. 就学前の子どもの読書活動に関する家庭の意識について

乳児や幼児を育てる保護者の読書活動に関する現状を知るため、市内の幼稚園と保育園の協力を得て4園の保護者のアンケート調査を実施しました。また、保健センターで実施している8か月児健康診査と1歳6か月児健康診査の会場で聞き取り調査を行いました。

「あなたは1か月に平均何冊の本を読んであげますか（祖父母などを含む）」という問いに「読んであげていない」が10%、「1～2冊」31%「3～4冊」が30%という結果になりました。



【お子さまに1か月何冊の本を読んであげていますか】

【お子さまへの本をどのようにして選びますか】

「読んであげていない」理由としては「家事や仕事で時間がとれない」「テレビ・ビデオなどで物語や童話をみせている」などのほか1歳前後では「子どもが本に興味を持たない」、5～6歳では「自分で読むので読んであげていない」などが挙げられました。

「主にどこで本を読んであげていますか」の問には、85%が「自分の家」と答えました。「図書館で」が5%、「病院などの待合室で」という回答も7%ありました。

「どのように本を選んでいきますか」の問には、46%が「書店で」25%が「図書館で」と答えています。テレビや新聞等で紹介されている本(11%)や友人に薦められて選ぶ(8%)など周囲の薦めも多いようです。

保護者自身の読書量について聞いたところ、「読んでいない」が34%と、全体の3分の1を占めました。最も多いのが1～2冊の42%で、読書の時間がと

第3章 子どもの 読書活動の課題

1．読書の楽しさを

読書量・読書の趣向・読書環境調査から

小中高生の読書活動の現状では、本を読まない理由のひとつとして「ほかにやりたいことがある」という回答が一番多くなっており、より積極的に読書にかかわるよう、「読書の楽しさがわかるような機会」をどのように提供していくかが大きな課題となってきます。

また、「読みたいと思う本が身近にないから」という回答も小学生や高校生では25%前後あったことから、「身近に本がある環境づくり」が望まれます。

また、高校生の不読率は全国平均と比較して少ないものの、中学生世代の読書活動が低下する傾向にあるため、「読みたいと思う本が身近にない」「どんな本を読めばいいのかわからない」という子どもを減らし、「いつでもどこでも楽しく読書活動ができる環境づくり」を目指すことが望まれます。

2．学校図書 of 充実

読書環境調査から

家庭での読書の割合が高いことは、家庭においてリラックスした自由な時間を読書にあてていることがうかがえますが、小学生では読書する場所として「学校の教室や図書室を利用する」が50%以上となっており、「学校図書の充実」と「学校図書館や教室での読書活動を促進」することが読書活動を活発にしていくものと考えられます。

3．図書館や分庫の利用

読書環境調査から

また、小学生は市の図書館や児童館などの分庫も利用しており、「図書館や分庫の利用促進」を今後も促進する必要があります。

中学生は、「自分の家」の次に「学校の教室や図書室」「友人の家」が本を読む場所となっており、「仲間と交流しながら気軽に楽しく読書活動」をすることが効果的と考えられます。

4．家庭での読書活動

幼稚園・保育園での読書活動・家庭の意識から

乳幼児期にあつては、保護者に対し「家庭での読書活動」が子どもの心の発達に重要な役割を果たすことなどを様々な機会を通して伝えていく必要があります。また、子どもの発達とともに読書活動が広がっていくよう、「幼稚園・保育園・子育て支援センター・療育センターなどでの読書活動を促進」していきます。

5 . 関係機関の連携・ボランティア活動

読書量・読書の位置付け・読書環境調査から

さらには、学校と市立図書館、地域分庫など子どもの利用が多い読書関連施設や書店などとの連携して「情報共有や情報提供を進める」必要があります。

また、学校での読書活動や市立図書館での読書活動に、「地域ボランティアの積極的な参加を促進」し、地域ぐるみの読書活動が望まれます。そのためには、「ボランティア活動の活性化のための支援の充実」などが求められます。

また、高校生は、本を読む習慣がついている生徒が多いと考えられますが「勉強・習い事がいそがしい」「ほかにやりたいことがある」などの理由で読書量が少ないため、図書館や利用の多い書店を中心に「情報発信」を様々なかたちで行い、読書の楽しさや意義を知ってもらう必要があります。

そして、子どもの読書活動の充実には「大人の読書活動の充実」が不可欠であり、市民全体で広く読書活動を促進することが大切になってきます。

第4章 子どもの読書活動 推進のための方策

5 市立図書館
明治39年「日露戦役
記念網走図書館縦覧所」と
してスタートしました。
大正15年には町立図書
館として文部省の認可
を受けました。平成12
年11月に現在の図書館
が建設され8分庫合わ
せ約15万冊の蔵書数で
年間貸し出し利用者数
27万冊（市民一人当た
り6.5冊）と、多くの
網走市民に利用されて
います。平成18年に百
周年を迎えます。

1. どこでも読書

(1) 家庭・地域における子どもの読書活動を推進します

家庭は、子どもたちが読書する習慣を身につける最初の場です。身近な大人が身体で触れ合い言葉で話しかけることが、子どもの心の成長と言葉の発達に大きな役割を果たします。また、親子で本を読んだり聞いたりすることで感動を共有し信頼感を得ることにより、人間形成に大きな影響を与えます。

このため、子どもが初めて本に触れ合う場としての家庭での読書活動を充実させることが大切となります。

保護者に家庭での読書の楽しさ・大切さを伝えます

市保健センターで実施している8ヶ月健康相談時に、⁵市立図書館にある読み聞かせ絵本のリストを保護者に配布し、子どもと絵本の出会いを通して子育ての楽しさや大切さを伝えるため、ブックスタート支援事業を行っています。また、子どもにどの本を選び与えるかを保護者に学んでもらう機会とします。

また、プレママクラブやハローベビークラブなど出産を控えた市民の学習に、生まれてくる赤ちゃんへの絵本選びや読書の時間の大切さを伝えるコマを取り入れ、出産準備期間に子どもの読書活動の大切さなどを伝えていきます。

また、親と子のふれあい教室や家庭教育学級などで子どもと読書のかかわりについて学ぶ機会を提供していきます。

子どもがいつでもどこでも読書活動できる場を提供します

就園・就学児童に対しては、学校以外でも読書に対して興味を持ち読書活動の楽しさを知ってもらうよう、夏休み・冬休み前などに家庭向けの図書館だよりを発行します。

また、放課後など児童館に集まる子どもたちが楽しく読書活動できるよう児童館分庫の整備を促進し、地域分庫としての役割を充実させていきます。

(2) 図書館における子どもの読書活動を推進します

図書館では、地域の情報拠点として本・雑誌・新聞などの活字情報やビデオ・CDなどの映像や音響情報を揃え、市民が活用する場です。また、市民の読書施設として本を読んだり、本を通して調べものをするなど生涯学習の拠点としての役割を果たしています。

子どもが図書館で自分の読みたい本を自由に選び読むことが出来る環境や、読み聞かせ会などの行事に参加することで読書のきっかけづくりを提供します。

6. レファレンスサービス
図書や読書に関する情報、日常生活に関する情報、郷土史に関することなど図書資料を使って調べられることについて、図書館職員が回答したり必要な情報源を紹介するサービス。

7. 学校巡回図書推進事業
(クリオネ分庫)
学級でも図書館の本が読めるように児童書を詰めたボックスを学級文庫として配置し1ヶ月毎に教室を巡回させ、より多くの本に巡り合う機会をつくります。

また、学校をはじめとして子どもたちの読書活動に関わる団体や施設に対して支援や協力をしていくことも大きな役割のひとつとなってきます。

市立図書館の機能を活かした読書活動を推進します

図書館に揃えているたくさんの絵本の中から、司書が選書して赤ちゃんと絵本の出会いをアドバイスします。

小学校との連携では、学校での調べもの学習で来館する子どもたちへの⁶レファレンスサービスの充実に努め、学校図書担当者との連絡会議を持ちながら、授業で図書館を利用する子どもたちがより利用しやすい図書館づくりに努めていきます。

また、市内小学校に学級分庫として図書館の児童書を定期的に循環させながら貸出する⁷学校巡回図書推進事業(クリオネ分庫)を促進していきます。

子どもが利用しやすい図書館づくりに努めます

子どもたちが楽しく図書館に利用し、読書習慣のきっかけづくりとなるよう、さまざまな工夫や事業を提供していく必要があります。

このため、読み聞かせ会等の開催のほか、児童書コーナーは、子どもがわかりやすい本棚づくりに努めます。

また、選書のアドバイスなどをする図書館ボランティアによる読書アドバイザーが、来館した子どもや大人に気軽に声をかけてくれる図書館を目指します。

また、図書館について理解し興味を持ってもらうため、子ども一日図書館体験教室などを開設します。

毎年の「子ども読書日」には、読書活動啓発のため工夫をこらした事業を企画していきます。

大人も子どもも楽しく読書活動する環境づくりをします

図書館の蔵書の整備充実に図り、利用しやすい図書館づくりを目指し、資料提供の充実のため他図書館とのネットワークの充実やインターネットで蔵書の検索が可能になるシステムも構築していきます。

また、図書館ボランティアや読み聞かせサークルなど読書活動関連団体・サークルの自主的な活動を支援するため読み聞かせや朗読などの講座を開設しボランティアの養成を図る一方、連携事業により幅広い図書館事業(図書館まつりなど)を展開していきます。

地域分庫⁸
 市内8カ所に分庫を開設しています
 もこと分庫▼中央地区総合研修センター内・毎週土曜日13時～15時開館・2、654冊
 北分庫▼北児童館内・児童館開館時間内・1、000冊
 西分庫▼西児童館内・児童館開館時間内・1、700冊
 つくし分庫▼つくし児童センター内・児童館開館時間内・1、700冊
 潮見分庫▼潮見児童センター内・児童館開館時間内・2、300冊
 よびと分庫▼呼人コミュニティセンター内・火曜日9時～22時・2、779冊
 ふれ愛分庫▼西網走コミニティセンター・木曜日9時～22時・2、917冊
 うらしべつ分庫▼浦士別郵便局内・月～金曜日9時～17時・445冊

2. 楽しく読書

(1) 幼稚園・保育園での読書活動を推進します

幼稚園・保育園は、家庭ではじめて本に出会った子どもが、次のステップ

として家庭とは異なった多様な読書活動を経験していく場です。

特に読み聞かせは、子どもたちに豊かな感情を芽生えさせ、言葉の発達と想像力を培う大切な時間です。読む側と聞く子どもたちのコミュニケーションを図りながら、楽しい読書活動を行うことが大切です。

読書活動で心豊かな子どもを育てます

1日1回は読書活動の時間をもうけ、絵本の読み聞かせや紙芝居など、本と触れ合う時間を充実させます。また、絵本・紙芝居など図書資料の整備し、子ども心に語りかけ響くような絵本などの図書資料の収集に心がけ、図書館などの団体貸し出しを利用しながら子どもの心の成長にふさわしい選書を促進します。

読書活動は、幼稚園や保育園の職員による読み聞かせばかりでなく、地域の読み聞かせサークルや保護者、小中高生のボランティアなどを積極的に受け入れ、バラエティに富んだ楽しい読み聞かせの時間をつくるよう心がけていきます。また、幼稚園や保育園で読み聞かせなどに使用する絵本などは積極的に家庭への貸し出しを行い、子どもの心の成長を家庭と連携して見守るようにします。

地域とのつながりを深めます

休園日などには、園を開放し、地域の子どもたちへの読み聞かせ会など読書活動の輪を地域に広げ、周辺地域と園とが連携した読書活動を促進します。

(2) 児童館・子育て支援センター・幼児療育センターでの読書活動の推進

児童館では、放課後の子どもたちが楽しく読書活動できるよう⁸地域分庫としての役割を充実させていきます。

乳幼児の子育てを支援している子育て支援センターには司書や読み聞かせボランティアが出向き、読み聞かせや読書指導を行い、乳幼児期の子育てを支援していきます。

また、幼児療育センターと連携し、触れて楽しめる布絵本やエプロンシアターなどを積極的に活用して、障がいを持った子どもの心のケアを支援となるような読書活動を促進していきます。

(3) 学校での読書活動の推進

学校の読書活動により、自ら本を選び読書を楽しむ態度を身につけることが望まれます。また、読書活動により読解力や表現力を身につけ、本を通して様々なことを学び自己判断力を高めることができます。

学校での読書活動では、教科や総合的な学習の時間、特別活動の時間などで学校図書館を利用したり市立図書館を利用するなどを推進してきましたが、

今後も、子どもの主体性を持った読書活動の展開が望まれます。

また、障がいをもった子どもたちには、子どもの発達段階や障がいの状態に応じた図書の選定を行いながら読書活動を促進していきます。

本との楽しい出会いをつくります

学校での一斉10分間読書を推進していきます。

全校一斉に(学級, 学年によるものもある)毎日、ホームルームや授業が始まる前の10分間など、先生・子どもそれぞれ持参した好きな本を自由に読みます。全国では小・中・高の全校一斉実践校は10,000を超えています。(朝の読書推進協議会調べ 平成15年4月)それぞれの学校の特色を生かした手法で無理なく推進していくことが大切です。

また、小学校では、地域のボランティアや保護者のサークルが学校に出向き、休み時間などを利用した読み聞かせや学校図書の修理を手伝う活動が盛んになってきています。今後もこうした学校で行われる地域の方々や保護者の読書活動を支援し、学校休業日や放課後の学校図書館の地域開放も、地域の方々の協力を得ながら推進します。

また、学校で子どもたちが読書活動を始めるきっかけづくりとして学校巡回図書推進事業(クリオネ分庫)を推進します。

学校図書館の整備・充実を図ります

学校生活で一番身近な学校図書館の整備・充実を進めていきます。学校図書館法により平成15年4月1日以降12学級以上の学校について司書教諭を置くことが定められており、現在小学校4校、中学校1校に配置されています。しかし、学級担任との兼任となっており、図書の書架整理等に中々時間をとることができない状況があります。

資料収集の充実や図書の修理・整頓など使いやすい図書館づくりを推進するには、専任司書の配置が望まれるほか保護者等の図書館ボランティアの受け入れを促進し、空き教室などを活動スペースに地域住民の支援を受け入れる体制の整備に努めます。

子ども読書の日⁹
 法律により、4月28日は「子ども読書の日」と定められています。これは、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられたものです。この日を中心に、学校・地域・家庭を通じて、子どもの自主的な読書活動が、より一層進められることが望まれます。

10
 読書週間
 昭和22年、読書の力によつて、平和な文化国家を作ろうという決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、第1回読書週間が開催されました。

そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に拡がっていきま

3. みんなで読書

(1) 市民みんなで子どもの読書活動を支援していきます

少子・核家族にあつては地域のいろいろな場所で読書活動が行われることが望ましく、地域全体が子どもたちを支援する役割を担っています。

このため、市民がそれぞれの立場からできることを支援していくことが大切です。学校をはじめ、保育園・幼稚園などの関連施設では読み聞かせサークルなどの活用を積極的に行い、子どもたちに多様で楽しい読書活動を提供していきます。また、書店と市立図書館や学校が連携したり、情報を共有しながら、網走市の子ども達への読書活動の啓発や優良図書の推奨などを促進します。

また、市内のコミュニティセンターなどを中心に読書関連事業を開催するなど地域ぐるみの読書活動を推進します。

また、大学との連携を推進し、専門書の貸し出しや地域への大学図書館の開放を働きかけていきます。

(2) 大人の読書活動を推進します

本が好きな子どもを育てるには、本が好きな大人がいることが大切です。このため、市民全体の読書活動を促進するために市立図書館では魅力ある図書館づくりを行い、様々なサービスの充実に努めていきます。

また、地域分庫の整備や団体貸し出しなど、地域読書活動の支援を促進していきます。

(3) 読書活動に関する情報提供を推進します

市広報紙や図書館だより、ホームページなどを媒体に読書活動に関するPRに努めます。

特に市立図書館の便利な活用方法について周知を図り、市民の書斎としての利用促進に努めます。

また、⁹ 子ども読書の日や ¹⁰ 読書週間、子どもための読書関連事業やサービスの仕組みについてPRするなど市全体で推進の気運を高めていきます。

また、読書活動のボランティアを行っている市民には国や北海道をはじめとする様々なうごき、制度、サービスなどについての情報提供を行い、活動について支援していきます。

網走市子どもの読書活動推進計画事業一覧

1. どこでも読書

(1) 家庭・地域における子どもの読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績
保護者に家庭での読書の楽しさ・大切さを伝えます。				
1	ブックスタート支援	8ヶ月児の保護者	健康管理課 図書館	継続 0歳からの始めて絵本
2	家庭教育学級での読書活動	就学前児童 小学生 中学生	社会教育課 図書館	新規
3	プレママクラブ・ハローベビークラブでの読書活動	出産前の親	健康管理課 図書館	新規
子どもがいつでも読書活動できる場を提供します。				
1	おすすめ図書の紹介	保育園児 幼稚園児 小学生 中学生	図書館	拡充
2	児童館分庫の充実	児童一般	児童家庭課 図書館	北・西・つくし・潮見各分庫 拡充 桂町・駒場など

(2) 図書館における子どもの読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績
市立図書館の機能を活かした読書活動の推進を図ります。				
1	子どものへのレファレンスサービスの充実	小学生	図書館	継続
2	分庫の充実	市民	図書館	北・西・潮見・つくし・もこと・よびと・うらしべつ・ふれ愛(8分庫) 拡充 桂町・駒場など

主な事業		事業内容	対象	実施主体	事業実績
3	学校への読書活動支援	学校での読書活動支援として図書館の図書の学級巡回貸出しを行います。	小学校低学年	図書館 市内小学校	クリオネ分庫 (平成16年度実績 網走小・南小・中央小) 拡充
子どもが利用しやすい図書館づくりをします。					
1	児童書コーナーへのボランティア参加による読書アドバイザーの配置	子どもがわかりやすい棚づくりに努め、市民ボランティアが図書館内で子どもに選書アドバイスをします。	市民	図書館	新規
2	子ども達が図書館の仕事を経験する機会の提供	図書館について理解を深め利用の促進と本への興味を図るため子ども一日図書館司書体験などの事業を開設します。	小学生	図書館	新規
3	読み聞かせ会の開催	図書館内「えほんのもり」で毎週土曜日にボランティアによる読み聞かせ会を開催します。	幼児 小学生	図書館	継続 毎週土曜日 4サークルが実施 (平成16年度実績 子668名大人340名参加)
4	子ども読書の日の啓発・広報	子ども読書日に読書活動の啓発事業を企画開催します。	幼児 小学生	図書館	継続
大人も子どもも楽しく読書する環境をつくりまします。					
1	図書の整備・充実	蔵書の整備充実を努め、大人と子どもの読書の推進を図ります。	市民	図書館	継続
2	ボランティア養成講座の実施	読み聞かせなどボランティアサークルのための養成講座を実施し自主的な活動を育成します。また、小中高生の読み聞かせサークルの育成に努めます。	市民	図書館	継続 (平成16年度実績)
3	インターネット蔵書検索システムの開設	図書館ホームページから蔵書検索が可能になるシステムを開設し、様々な場所から図書資料の検索ができるようにします。	市民	図書館	新規
4	図書館ネットワークの充実による資料提供の充実	国会図書館、道立図書館・近隣図書館とのネットワークによる資料提供の充実を図ります。	市民	図書館	継続
5	市民の読書活動を生かす場としての図書館づくり	市民による「私のオススメ図書」を紹介していきます。	市民	図書館	新規
6	図書館利用者の拡充	図書館まつりなどを開催し、図書館入館者の拡充を図ります。	市民	図書館	継続
7	ボランティアと図書館が連携した事業の展開	ボランティア活動と連携して図書館の機能を活かした事業を推進していきます。	市民	図書館	拡充

2. 楽しく読書

(1) 幼稚園・保育園・子育て支援センター・療育センターでの読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績	
読書活動で心豊かな子どもを育てます。					
1	読み聞かせの時間の充実	1日1回、読み聞かせの時間をつくります。	幼児	各施設	継続
2	絵本・紙芝居などの図書資料の整備を促進	子どもが楽しんで読むことができる図書の整備を促進します。	幼児	各施設	継続
		図書館の団体貸し出しの利用を促進し読書活動を充実させます。	幼児	各施設	継続
3	障がいを持った子どもの読書活動によるケアの支援	布絵本、エプロンシアターなどで楽しい読書活動により障がいを持った子どもの心のケアに役立てます	幼児	社会福祉課	拡充
4	子育て支援センターでの読書活動の促進	親子の読書活動を支援するため子育て支援センターでの読み聞かせや読書指導を実施する。	乳幼児 保護者	児童家庭課 図書館	継続
家庭とのつながりを深めます。					
1	地域の子どもや保護者への園の開放	休園日の地域開放を促進し読書活動への理解を広めます。	市民	幼稚園	拡充
2	絵本などの貸し出し	家庭への貸し出しを実施し家庭との連携を図ります。	幼児	各施設	拡充
3	学校図書担当者との連絡・連携	学校図書室と市立図書館の情報交換や協力体制を図るため学校担当者との連絡会議を開催します。	図書館 市内小中学校	図書館	継続 学校図書担当者連絡会議

(3) 学校での読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績	
本との楽しい出会いをつくります。					
1	10分間読書の推進	授業前・休み時間など利用し読書活動の普及を図ります。	小学校 中学校 高校	管理課 北海道	拡充
2	P T A や地域ボランティアによる読み聞かせ活動の促進	市内小学校でのP T A や地域ボランティアの協力により読み聞かせ活動や図書室の利用促進を支援します。	小学校	管理課	(網走小・中央小・南小・西小へ活動費補助) 拡充
3	休業日等における学校図書館の地域開放を促進	地域住民の学校図書活動の理解を深め協力体制が得られるような地域開放を進めます。	小学校	管理課	(中央小) 拡充
4	市立図書館との連携で読書活動の機会を充実	学校での読書活動支援として図書館の図書の学級巡回を行います。	小学校	管理課 図書館	クリオネ分庫 (平成16年度実績モデル校3校) 拡充

5	団体貸し出しの利用促進	図書館の団体貸し出しの利用を促進し読書活動を充実させます。	小学校 中学校 高 校	図書館 北海道	継続
学校図書館の整備・充実を図ります。					
1	司書教諭の配置	司書教諭の配置を行い、学校図書館の利用促進を図ります。	小学校 中学校	教育委員会	拡充
2	学校図書館の図書整備	子どものニーズを把握しながら図書の整備を計画的に進めます。	小学校 中学校 高 校	教育委員会 北海道	拡充
3	空き教室を読書活動スペースとしての活用を促進	学校の空き教室を読み聞かせサークルの活動室や生徒の読書活動の利用促進を図ります。	小学校 中学校 高 校	教育委員会 北海道	拡充
4	学校図書担当者との連絡・連携	学校図書館と市立図書館の情報交換や協力体制を図るため、また学校間の情報交換の場として連絡会議を開催します。	図書館 市内小中学校	図書館	継続 学校図書担当者連絡会議

3. みんなで読書

(1) 市民みんなで子どもの読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績	
ボランティア活動を支援していきます。					
1	ボランティア活動の支援	ボランティア活動を促進し、学校内での幅広い読書活動に協力します。	市民	教育委員会	拡充
2	ボランティア養成講座の実施	読み聞かせなどボランティアサークルのための養成講座を実施して自主的な活動を育成します。	市民	図書館	継続
関連機関との連携を図ります。					
1	書店との連絡・連携	書店と図書館、読書活動関連施設が連携しそれぞれが子ども達への優良図書の推奨をPRしていきます。	市民	各課	拡充
2	大学図書館との連携	市立図書館と大学図書館の相互貸借ができるよう整備を進めます。	市民	図書館	拡充
3	コミュニティセンター（分庫）との連携	地域コミュニティセンターと連携した読書活動の促進を図ります。	市民	図書館	拡充

(2) 大人の読書活動を推進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績	
魅力ある図書館作りを推進します。					
1	魅力ある資料の収集	市民の学習要求や学習課題に対応した図書の収集に努めます。	市民	図書館	継続
2	高齢者や障がい者の読書活動支援	高齢者や障がい者への読書サービスに努めます。	市民	図書館	継続
3	蔵書目録のインターネット公開	自宅や図書館以外でも蔵書が調べられるようインターネットで公開します。	市民	図書館	新規
4	地域分庫の整備	図書館から遠隔に住む市民のため地域分庫の整備を図ります。	市民	図書館	継続
5	団体貸し出しの促進	団体貸し出しを促進し、地域の読書活動を支援します。	市民	図書館	継続

(3) 読書活動に関する情報提供を促進します

主な事業	事業内容	対象	実施主体	事業実績	
市民に読書活動への理解を広げていきます。					
1	読書活動のPR促進	広報市へのPR、図書館便り、ホームページ等で読書活動についてのPRに努めます。	市民	図書館	継続
2	読書活動に関する情報提供	読書活動サークルや団体に、国・北海道を始めとする様々な情報を提供しながら活動を支援します。	市民	社会教育課 図書館	継続

.....

おわりに

計画推進にむけて

この計画は、国、道、市、関係団体の協力・連携を図るとともに市民ボランティアによる細やかでかつ広がりのある読書活動を重視しながら推進していきます。

本計画を効果的に推進するため、子どもの読書活動推進のための庁内連絡会議を設置し、本計画に計上した事業の進捗状況を把握し、事業の継続的な進行管理を行っていきます。

また、子どもの読書活動に関する実態調査を最終年に実施し計画の達成度を評価するとともに、必要に応じて計画の見直しや検討を行っていきます。